

<赤い羽根共同募金助成決定団体代表挨拶>

宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会
会長 齋藤 勇介

この度は、令和5年度県域助成事業の赤い羽根共同募金助成を決定頂き、深く感謝申し上げます。決定団体を代表いたしまして一言ご挨拶をさせていただきます。

令和5年度の助成決定団体の一つであります宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会は児童館及び放課後児童クラブ相互の連携と事業の促進を図り、児童の健全育成に寄与することを目的として、県内のネットワークを育みながら日々取り組んでおります。

今回助成を頂きまして実施する事業につきまして、1つは県内の児童館・放課後児童クラブ従事者を対象とした研修会の実施となります。協議会が中心となり学びの場を提供していくことで県内の従事者の資質の向上につながります。昨今、学校教育の場や保育現場の中で子どもたちに対しての不適切な関わりが取り立たされている状況があります。現場従事者の資質を高め、それぞれの現場で学びを共有し意識を高めて環境改善を図っていくことは、こども・子育てを取り巻くより良い環境を育み、児童福祉法の根幹である子どもの最善の利益につながっていくことと感じております。

そして、もう一つは第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会スピノフ事業「あそびの屋台」の実施です。一昨年前の11月、「東日本大震災から10年の節目の年に被災地である宮城から全国へその歩みを未来へとつなぐ発信を！」と全国の児童館・放課後児童クラブ従事者の声を受けて、当団体が主催団体の一つとなり全国児童館・児童クラブみやぎ大会が実施されました。コロナ禍での開催となりましたが出来ないではなく、新たな視点を取り入れて全国大会初のオンライン開催として1200名を超える過去最大級の参加者の下、大盛況で幕を閉じました。しかし、全国の大会参加者はもちろん県内の子どもたちも現地で実際に遊びを通じて様々な経験ができる場として企画していた「あそびの屋台」についてはオンライン開催での実施は難しく、実現が出来ていなかった企画になります。こども家庭庁の創設に伴い掲げられた「こどもまんなか社会」をまさに象徴する取り組みとして、ぜひ、この企画を実現させたいという当時の実行委員をはじめとする想いを受けて、事業の実施をおこなうこととなりました。こどもたちが主体的に遊びに関わり、様々な経験を通じて学び育ち合う場として、そしてその姿に寄り添いながら子育て支援者や大人の方々が、今こどもたちに必要な経験や環境は何なのかを感じ、学びを深める場として取り組んでいきたいと思っております。

この度は、令和5年度県域助成事業の赤い羽根共同募金助成を決定頂きありがとうございます。有効に活用させていただきます。

また、赤い羽根共同募金にご寄付をいただきました県民皆さまに対し、この場をお借りし、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。